

2017.9.26

川崎港東扇島～水江町地区川崎臨港道路整備工事の現場及び 東扇島地区防災拠点の見学会の報告

【概要】国土交通省管轄の上記京浜運河を横断する橋梁工事の現場及び東扇島地区防災センターを見学させていただきました。

国土交通省の京浜港湾事務所の方々及び施工会社の皆様にはお忙しい時間を割いていただきとても分かりやすく迫力のあるめったにみられない現場をご紹介ご案内していただきありがとうございました。そして現地までマイクロバスで送迎していただきありがとうございました。

橋梁の基礎工事では私たちはめったに見ることができないニューマッティクケーソン工法を説明していただき、又まじかに施工をしている現場を見ることができました。見学者の皆さんはどのようにして橋梁の基礎ができているのかを肌で感じ知ることができたと思います。完成した橋の基礎は私たちには見ることはできません。それだけに見学者の皆さんは大いに感激されていました。

防災センターではパワーポイントを交えて東京湾の2か所(有明の丘地区と東扇島地区)の首都圏の広域・災害に備えての拠点の役割や機能をご説明いただきました。私たちはこの場所にこのような施設があるとは知っていましたが、細かい機能や役割についてはまったく知りませんでした。

海上、空、陸からの緊急時の物資の拠点となりこの場所では24時間体制で職員の方々が常駐されているお話をお聞きしました。主な備蓄資材が東日本の震災や2年前の茨城県常総市の鬼怒川堤防の決壊、熊本地震などにも提供されたとのことには驚きもしましたし大変心強いと思いました。国土交通省の全国津々浦々の事務所とのネットワークで災害に対する支援体制ができているのだと感じました。また日頃の災害訓練の様相も知ることができました。

見学者の皆さんは新しい知識や情報などを知ることができました。川崎の産業観光を支援する会ではこの知識や情報を活かしてさらに我々自身がブラッシュアップして市民にこの地区の機能や役割などを機会があるときに説明できればと考えています。関係者の皆様には貴重な時間を見学会のために割いていただきありがとうございました。

【日付】平成29年9月25日(月)14:00～17:10

【見学の目的】京浜運河の横断橋の基礎工事の現場見学及び防災センターの機能役割等を知る。

【参加者】川崎の産業観光を支援する会16人(男性11人、女性5人)

【コース概要】



橋の完成イメージ図。斜張橋。完成予定は平成 35 年とのこと。説明会資料抜粋より。

【感想】水江町地区の先端の建設現場に案内されてヘルメット及びライフジャケットを着用して現場事務所の説明室にて工事の意義、建設の工法等の説明をしていただく。

現在、東扇島地区は千鳥町から海底トンネルで結ばれているが、東扇島とは 1 本のトンネルでしか結ばれていない。川崎ファズやその他の物流の拠点でもあり、高速道路との結節、防災センターでの災害発生時の緊急物資の円滑な輸送機能強化のうえでこの臨港道路はとても重要な役割を担うとの説明がありました。

橋梁の基礎であるニューマティックケーソン工法について施工会社の方より説明をいただき、現地でも細かく説明をいただきました。コンクリートの箱を作りながら徐々に掘りながら沈めていく。水圧と土の圧力とコンクリートの箱の重さを圧縮空気を支えながらバランスを取りながら掘り進んでいくとのこと。沈めていくケーソンの箱の傾きなども機械操作室で瞬時に分かるように表示されていました。また暗視眼鏡みたいなのを着用してケーソン内部の土砂掘削に使うとのこと。

現場はとてもきれいで作業する人が少ないなという感じでした。

防災センターの説明では多目的広場では砂利が埋めてあり災害には砂利を復旧に役立てるとの話は驚きでした。備蓄資材では発電機付き投光器や敷鉄板なども保管されている状況を見せていただきました。被災があった場合の応急措置は1日以内でやると話されました。

質疑の時に津波に対する安全性の問題がありました。東京湾は閉鎖性区域なので太平洋岸とは違い大きな津波の恐れは少ないとの説明でした。この東扇島地区の地盤高は6mで首都圏直下型での津波の想定は3mだそうです。自然災害は我々が想定する以上のものが起きることはよく経験しますが、一応の目安では大丈夫のようです。

以上とても有意義な見学会でした。今回は我々支援する会の役員やガイドが中心でしたが、次の機会は川崎市民の方々にも広く見学会をやりたいと思います。

その節は国土交通省の関係者の皆様や施工者の皆様にはよろしくお願い致します。ありがとうございました。

【写真】



水江町の先端部の建設事務所。
ヘルメット及びライフジャケット着用。



事務所で説明を受ける見学者の皆さん。



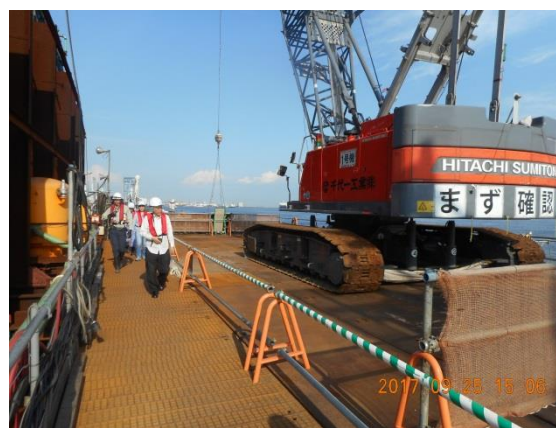
マンロック（作業員が出入りするエレベーター付き）



マテリアルロック（資機材や残土を搬出する）



MP 1 方向を望む。





機械操作室。暗視カメラみたいなものを着用し前に映し出されている画面を見ながら掘削機械を操作する。



ケーソンの傾きを観ながら掘削を進めているとのこと。



MP 5, MP 6 の現場



この地区の拠点センター。建物は免震構造になっていました。



東扇島地区の防災の機能役割などのご説明を聞く。



自家発電装置室



建物は免振構造



備蓄資材倉庫の見学。



防災センターの3階からの眺め。
天気も良く風の塔がよく見えました。

川崎の産業観光を支援する会の事務局
根岸雅明 記